

ファラデーの法則 (演習問題)

v2.7 Nov.2020

凡例: ♣◇教科書 ♡演習書 ♠他文献

番号: _____ 氏名: _____

1. ♣ 一様な磁束密度 B [T] の中で、巻数 N 、面積 S [m²] のコイルが角速度 ω で回転している。コイルの法線面と磁束密度のなす角度を $\theta = \omega t$ として、コイルを貫く磁束、磁束鎖交数、誘導起電力を求めよ。(教科書、例題 8.1) *¹
2. ◇ 巻数 10 回のコイルに 0.25 Wb の磁束が通っている。この磁束を直線的に減少させて、1/100 秒間に 0 としたとき、コイルに発生する起電力は幾らか。(教科書、演習 8.1) *²
3. ◇ 正弦波状に変化する磁束 $\Phi = \Phi_0 \sin \omega t$ [Wb] が巻数 N 回のコイルと鎖交しているとき、コイルに誘導される起電力を求めよ。ただし、磁束の振幅は Φ_0 は一定である。(教科書、演習 8.2) *³
4. ◇ 半径 5 cm、巻数 600 回の円形コイルが、磁束密度 0.1 T の一様な磁界中で磁界に垂直な軸のまわりを毎分 1500 回転するとき、コイルに発生する交流電圧の振幅と周波数を求めよ。(教科書、演習 8.3) *⁴
5. ◇ 一辺の長さが a [m]、巻数 N の正方形コイルが中心 $(a/2, a/2)$ として xy 平面上に置かれている。変動磁場 $B = B_0 \sin(\pi x) \sin(\omega t)$ が面を垂直に貫くとき、誘導電圧を求めよ。(教科書、演習 8.4) *⁵
6. ♡ 2 辺の長さが a, b [m]、巻数 N 回の長方形コイルを平等磁界 H_0 [A/m] の中で、磁界に垂直な軸のまわりを角速度 ω [rad/s] で回転させるとき、コイルの両端に生じる電圧を求めよ。ただし、 $t=0$ 秒のとき、コイル面の法線方向は H_0 の方向とする。(教科書、演習 8.6) *⁶

7. ♠ 半径 R 、単位長さあたり n 巻の非常に長いソレノイドに、電流 $I = I_0 \cos \omega t$ に従って変化する電流が流れる。ここで、 I_0 は最大電流であり、 ω は電流源の角振動数である。ソレノイドの軸線からの距離 r の位置における電界を求めよ。(R. A. Serway, 科学者と技術者のための物理学 III 電磁気学, p.909, 例題 31.7) *⁷
8. ♠ ベクトル形のファラデーの法則からスカラー形のファラデーの法則を導出し、図を用いて各変数をすべて説明せよ。ただし、 $\vec{E} = E_t \hat{t} + E_n \hat{n}$ とし、 $\vec{B} = B_t \hat{t} + B_n \hat{n}$ とし、 \hat{t} は積分路 C 上または積分面 S 上の接線方向単位ベクトル、 \hat{n} は積分路 C 上または積分面 S 上の法線方向単位ベクトルとする。*⁸

★ 公式集

磁束鎖交数

$$\varphi = N\Phi \text{ [Wb]}, \quad N = nl: \text{巻数}, \quad n: \text{単位長さあたりの巻数} \quad (1)$$

ファラデーの法則

$$e = -\frac{d\varphi}{dt} \text{ [V]}, \quad \text{or} \quad \oint_C \vec{E} \cdot d\vec{l} = -\int_S \frac{\partial \vec{B}}{\partial t} \cdot d\vec{s} \text{ [V]}, \quad (2)$$

磁場の変化がない場合、即ち $\partial/\partial t = 0$ のときは

$$\oint_C \vec{E} \cdot d\vec{l} = 0, \quad \text{保存場 (する仕事=される仕事) の性質 [J]} \quad (3)$$

*¹ 答え: $B \cos \omega t$ [Wb], $NB \cos \omega t$ [Wb], $N\omega BS \sin \omega t$ [V]

*² 答え: 250 V

*³ 答え: $N\omega\Phi_0 \sin(\omega t - \frac{\pi}{2})$ [V]

*⁴ 答え: 73.9 V, 25 Hz

*⁵ 答え: $-2NfaB_0(1 - \cos \pi a) \cos \omega t$ [V]

*⁶ 答え: $\mu_0 H_0 N a b \omega \sin \omega t$ [V]

*⁷ 答え: $E = \frac{\mu_0 n I_0 \omega R^2}{2r} \sin \omega t \quad (r > R), \quad \frac{\mu_0 n I_0 \omega}{2} r \sin \omega t \quad (r < R)$

*⁸ 答え: $\oint_C \vec{E} \cdot d\vec{l} = -\frac{\partial}{\partial t} \int_S \vec{B} \cdot d\vec{s} \rightarrow \oint_C (E_t \hat{t} + E_n \hat{n}) \cdot d\vec{l} = -\frac{\partial}{\partial t} \int_S (B_t \hat{t} + B_n \hat{n}) \cdot d\vec{s} \hat{n} \rightarrow \oint_C E_t dl = -\frac{\partial}{\partial t} \int_S B_n ds$